

日本性科学学会 ニュース

第24巻第2号

平成17年(2005年) 6月

発行人: 野末 源一 印刷所: (株) 絢文社

第25回 日本性科学学会のお知らせ

第25回日本性科学学会・第7回性科学セミナーを下記のとおり予定しております。
皆様奮って御参加下さいますようご案内申し上げます。

会 期: 2005年11月5日(土) 午後 第7回性科学セミナー・懇親会

11月6日(日) 第25回 日本性科学学会 学術集会

場 所: 東京医科歯科大学 5号館4階講堂・セミナー室

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

学 会 長: 麻生 武志 (東京医科歯科大学 周産・女性診療科)

メインテーマ: 「性科学の現状と展望」

プログラム(予定):

一般講演(口演) 2名の方に、性科学の基礎と臨床に関連した特別講演をお願いします。

特別講演1 Professor Peter Lim Haut Chye M.D. Ph.D. (Singapore)

Medical Director, Urology Centre, Gleneagles Hospital,

Sr Visiting Consultant & Advisor, Dept of Urology, CGH, Singapore

Adjunct Professor, Edith Cowan University, Australia

「射精障害の基礎・臨床における新しいアプローチ」

特別講演2 Professor Won-whe Kim, MD. PhD. (Korea)

Extraordinary Professor, Graduate School, Seoul Women's University Hon.

Professor, Pusan National University

President, Korean Association for Sexology

シンポジウム 「性科学の現状と展望」

荒木乳根子(田園調布学園大学・人間福祉学部人間福祉学科)

岩本 晃明(聖マリアンナ医科大学・泌尿器科)

大川 玲子(独立行政法人国立病院機構千葉医療センター・産婦人科)

川野 雅資(川野メンタルヘルス研究所)

北村 邦夫(日本家族計画協会)

一般演題申し込み締切 2005年7月22日(金)

400字以内の演題要旨をe-mailにて下記宛にお送りください

e-mail address: s.obayashi.gyne@tmd.ac.jp

一般演題は全てパソコンプロジェクターを使った口演のみといたします。

お問い合わせ先 〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学 周産・女性診療科 担当: 尾林 聡

電話: 03-5803-5322 Fax: 03-5803-0148

Vol. 24

№
2

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

〔症例研究会から〕

欧米のトランスセクシュアル・コミュニティにみるディレンマ：

— 2 亜型と治療者を含めた 3 者のダイナミズム —

帝京平成大学大学院 黒柳 恵（俊恭）

〈はじめに〉

欧米研究史の極初期から、トランスセクシュアル（TS）には亜型の存在が知られ、類型学が試みられてきた。今回の「症例研究会」では、SRS（性別再適合手術）を求める TS たちに、かなり印象の違う亜型が存在することが原因で生じ、治療者をも巻き込んで、欧米の同研究領域の「深刻な問題」に発展した亜型問題をテーマとしたい。

2つの亜型：①ホモセクシュアル・TS：心理学的に同性愛との連続性が感じられる。

②トランスヴェスティック・TS：異性装嗜好（TV）との連続性を感じる。

最近はおートギネフィリア（autogynephilia）と言われることも多い。

〔Ⅰ〕2 亜型と治療者を含めた、3 者の相互作用の過程で、「問題」は生じた

「男性の身体に捉えられた女性」という、TS ムーブメント初期には効果的だった表現は、現在では不幸にも治療者と当事者にとって様々な負の影響をもたらすようになっている。

極初期の治療者たちは、「同性愛的 TS」が、SRS に最適な患者と感じていた。事実、もう一方の亜型より若い時期に SRS を受ける傾向があり、女性的過ぎるくらいで、パッシング能力には恵まれていた。他方、一見不適應はなく、過度に女性的でなく、特に男性好きでもない亜型が当時充分には理解されず、「彼らもまた SRS で幸せになれる人たち」であることが確認できていなかった。

不幸にも、初期には SRS に適さないと考えられた TS は、手術のために自らの「性」を隠し、「教科書」等にある「男性の身体に捉えられた女性」といった紋切り型の訴えを使って、SRS を受けることに成功し、以後、自らの「性」を隠す傾向が定着してしまった（Fisk, N. M. 1974）。このように、TS 人口にしめる亜型の割りあい変動し、TS 全体のプロフィールが変ってしまった。TS が真実を隠すことは、研究上支障となり、臨床的には治療関係の障害となった。他方、同性愛的亜型に比べれば、比較的適應のよい TS たちは、経済力を持ち団結し、「患者集団」として治療者と交渉・協力できやすいこともあり、現在、TS コミュニティ自体を動かすまでになっている。

次に、私が経験した日本の「事例」を通して、上記の欧米の問題が現在の日本の事例のなかで、どのような表れ方をするのか例示したい。

〔Ⅱ〕日本の事例：A さん、25 歳 無職 ジェンダー・ディスフォリア

身体的にはノーマルな男性だが、診療所に紹介されてきた時点で、A さんは大学 2 年生であり、既に「去勢手術」を受けて半年ほど経っていた。当時 162cm×57kg という比較的小柄な A さんは元々パッシングに有利な人だった。A さんは現在治療中であり、ケースの詳細を述べるわけにいかないが、テーマに関する部分に限って、「概要」を述べたい。

治療初期の A さんの訴えは、（去勢）手術を受け、相当量の女性ホルモンを使用していたにもかかわらず、「女性に対して性的に反応することが苦しい」というものだった。A さんは知的な人だから、治療者は、「性のオリエンテーション」と「同一性」は独立しているなどの情報を提供し、A さんの苦痛を和らげたいと考えたのだった。初期の中心的悩みだったこの苦痛に関して、現在 A さんは悩んだことを忘れる程に克服できたように思う。

最初数回の面接において治療者は既に、A さんの「性」は、空想の面では TV と連続的と感じた。身長など大変有利ではあったが、「仕草」等の面で、まだ身に付けるべきものがあると感じ、治療者は「自助グループ」への参加を勧めたが、A さんは参加しなかった。

また、A さんの家族布置は、インテーク時のご両親の話では、ご両親が離婚や再婚を経験している、やや込み入ったものだったので、面接開始から数ヶ月経った時点で、治療者は A さんの「母親との関係」や「思春期の性」など、面接のなかで取り上げようと話を、幾度となく仕向けたのだが、A さんはそのようなテーマになると必ず、それらについての「話を避ける」のだった。まるで、私は「分析は望んでいません」と言っているように感じたり、「何か隠したいものがあるか」に感じた。このままでは、「心理療法」は深まらないし、援助できないと感じて、治療者として無力感を感じ始めていた。それでも A さんが望むなら、「治療方針」を変えたのが、1 年以上過ぎた頃だった。

ここでは割愛するが、母親と口論した後、デパートの内装のガラスを壊して警察に逮捕される事件や、うつがひどくて何もできなくなり、クリニック関連の病院に半年ほど入院するなど、幾つかの大波を乗り越えて、4 年の後半までやっとたどりついた。4 年生の秋から冬にかけて、今度は卒業論文に集中できない、いくら寝ても寝ても、寝足りない時期が続いて、治療者は大変心配したが、幸いこの 3 月に、A さんは奇跡的に卒業でき、現在にいたっている。

A さんの事例から推測できるのは欧米の TS たちと同様に、日本の性転換希望者も、「TS の診断」を得るためには、自らの「性」を隠して、「古典的 TS の訴え」を使う可能性があることなのである。

〈おわりに〉

以上、お話しの前半では 2 つの対象的な亜型のために、欧米の TS の治療や研究の領域で生じた、深刻な問題を歴史のながれに沿って説明し、後半では現在の日本の事例のなかにも、既にその影響が感じられることを例示した。上記のような知識を、日本のこの領域の将来のために役立て、欧米の「過ち」を繰り返さないことを望みたい。

第 17 回世界性科学学会と最近の WAS の話題

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター 大 川 玲 子

第 17 回世界性科学学会 (17th WCS) は、来る 7 月 10 日から 15 日まで、カナダのモントリオールで開催されます。会長はマックギル大学ヘルスセンター、ヒューマンセクシュアリティ部門の泌尿器科医である、P. アッサリアン教授です。大会テーマは「Unity in Diversity 多様性と統合性」です。2003 年のキューバ大会では、性の健康と多様性はキーワードの感がありましたが、今回はジェンダーや性指向、地域などによる多様性を認めあうなかでも、性の健康を推進するための課題には、一致して取り組んで行こうという姿勢が感じられます。モントリオールはフランス語圏の都市ですが、WCS の公用語は英語とスペイン語なので、主な講演には 3 国語の同時通訳が用意されています。6 日間、たっぷり楽しめるプログラムが組んでありますが、もちろん市内中心に観光も楽しめるでしょう。詳細はまた帰国後にお伝えしますが、まだ学会ツアーには間に合いますので当会事務局か日本性教育協会内、日本性科学連合事務局までお問い合わせ下さい (info@jase.or.jp 03-6801-9307)。世界学会の詳細は www.monterealsex.com を御覧ください。

WCS は 2 年ごとに開催され、1974 年のパリ大会から 30 年余の歴史があります。WHO で性の健康の概念を打ち出したのもそのころです。日本性科学会の前身である日本セックス・カウンセラー・セラピスト協会は 1976 年、日本性教育協会は 1972 年にそれぞれ設立されました。同じころに世界でも日本でも、セクシュアリティを人間に不可欠な問題ととらえ、性科学を拓め、研究や教育が表立ってできるようにしていこう、という大きなうねりがあったわけです。

この間、世界的には妊娠、出産、避妊、不妊などの医学が進歩し、多くの人に性の健康が得られる基盤が産まれました。性機能障害の治療も、シルデナフィルの開発に象徴されるように、科学の進歩とそれを歓迎する世論がおこりました。女性の人権もまだまだ不十分ではありますが、前進したと言えます。HIV を始め性感染症の脅威に対しても、人類は果敢に対処してきたと思います。それらは WCS の内容からも見てとれるものです。1995 年の第 12 回 WCS (横浜) や、2000 年の第 6 回アジア性科学会 (神戸) はある意味でそのピークであったかも知れません。

しかしここ数年の世界や日本では、むしろ性科学や性の健康、性教育に対して必ずしも科学的な裏づけも無く、宗教心や感情に訴えて性の健康促進活動を抑える動きが、政治の中枢部からの働きかけでおこっています。いわゆる性教育パッシング、ジェンダーフリー・パッシングといった動きです。WAS は一貫して性の健康を提案し、そのために必要な要件でもある「性の権利宣言」を 1999 年に発表しました。今、WAS が多様性をうたいつつも統合を訴えるのは、こうした逆風が背景にあるためと思われる。

先頃、ローマ法王パウロ二世が逝去しましたが、彼についての新聞報道は、故人を送る言葉であるにしても、平和の為に世界中を精力的に駆け巡った法王という表現でした。しかし世界女性会議などでバチカンが最後まで妊娠中絶を認めないなど、性の権利に対しては反対勢力であり続けました。そのことは一方でイラク戦争に反対を表しつつ、妊娠中絶に反対する人々の票を集め再選を果たした、米国ブッシュ大統領に結果的には加担したと、WAS の前会長 Dr. Coleman は批判的なメッセージを伝えています。後任のベネディクト 16 世も同じ路線とのことで、性科学を推進する立場としては樂觀できません。

WAS は当初、その学会 (congress) を性医学会としていましたが、後に性科学会と改め、守備範囲を大きく広げた経緯を経て、現在のメンバーも内容もまさしく多様な学会になりました。しかし最近になって、学会の名称そのものを World Association for Sexual Health (世界性の健康学会) に変更しようという動きがあり、今回の総会で論議されるようです。私自身は学会のあり方として、政治と一体化するより、性科学会としてのアイデンティティを重視し、専門家団体として発言する方が良くと考え、advisory board member の一人として 発言しています。しかし実際に性的マイノリティ (性同一性障害や同性愛者、女性など) の性の権利が力づくで抑制されかねない現在、WHO との強い絆を持って世界に提案していきたいという、WAS 会長の Dr. Ganem や Dr. Coleman の気持ちもわからないではありません。日本での性科学の発展、性の健康の推進についても、是非 WAS は牽引力になってほしいと思います。

「セックス・カウンセリング入門」日本性科学会監修、金原出版、改定第 2 版出版のお知らせ

1995 年出版の第 1 版から 10 年が経ちました。一昨年から準備を進めた改訂版ですが、このたびようやく出版となりました。性の権利、セクシュアル・マイノリティ、シルデナフィルなどの性機能障害治療薬、等々新知見も増えて、ほぼ全面的改定が行われました。装丁も新しく、B 5 版です。会員必読書と思われるので、是非お求め下さい。また関連領域や興味のある方に御推薦下さい。定価 (本体 5,800 円 + 税) です。

第 10 回日本性科学学会総会議事録

日 時：2005 年 5 月 22 日 午後 1 時 15 分～1 時 45 分
場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校一号館 5 階講堂，東京

野末理事長による開会の挨拶があった。

続いて，司会者（高橋幹事）が議長を誰にすべきか会場に諮った。会場からの「司会者に一任」の声を受け，針間幹事長が議長となる。針間幹事長の議長で進行。

議長より，「出席者 51 名，委任状 138 名。総会が成立した」との報告があった。

議題 1 2004 年度事業報告（大川理事）

○2004 年度の事業報告が大川理事からなされ，承認された。（資料 1）

議題 2 2004 年度決算の承認（山崎理事）

○2004 年度の決算が山崎理事より報告された。（資料 2）
○長田監事より監査報告があり決算は承認された。

議題 3 2005 年度事業計画案の承認（大川理事）

○2005 年度の事業計画案が，大川理事より提示され承認された。（資料 3）

議題 4 2005 年度の予算案の承認（山崎理事）

○2005 年度の予算案が山崎理事より提示され承認された。（資料 4）

議題 5 第 26 回日本性科学学会学会長選任について

○野末理事長より村口理事が推薦され，承認された。

第 25 回日本性科学学会学会長挨拶

○尾林先生から「学会は，11 月 5～6 日に開催。多くの方の参加を期待している」との挨拶があった。

第 26 回日本性科学学会学会長挨拶

○村口理事の挨拶があった。

阿部副理事長による閉会の挨拶

〈資料 1〉

日本性科学学会 2004 年（平成 16 年）度事業報告

（2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日）

1. 第 9 回総会

期 日：2004 年 5 月 16 日

場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館

出席者：41 名

委任状：114 名

2. 会員状況

2003 年度末 正会員 288 名 賛助会員 3 法人

2004 年度末 正会員 295 名 賛助会員 3 法人

年度内会員移動

入会員数 正会員 32 名 賛助会員 0 法人

退会員数 正会員 25 名 賛助会員 0 法人

3. 会の運営

(1) 理事会 2 回

(2) 幹事会 13 回

4. 学術集会の開催

(1) 第 24 回日本性科学学会

2004 年 11 月 7 日新潟市において開催予定であったが，新潟中越地震のために中止となり，下記のとおり東京都において開催された。

期 日：2005 年 2 月 13 日

場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館

会 長：内野英幸（新潟県小出保健所長）

テーマ：人間行動学とセクシュアリティ：性の健康を創る－生き方，育て方，学び方－

5. 研修会，研究会の開催

(1) 第 33 回性治療研修会

期 日：2004 年 5 月 16 日

場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館

(2) 症例研究会 5 回開催

6. 学会誌，学会ニュースの発行

・学会誌 2 回

・学会ニュース 4 回

7. 資格認定制度実施状況

資格認定者

・セックス・カウンセラー（更新者）5 名（登録者数 20 名）

・セックス・セラピスト（更新者）3 名（登録者数 37 名）

8. 関連団体との交流

(1) 日本性科学連合（J F S）

・加盟団体

日本性科学会，(社)日本家族計画協会，(財)日本性教育協会，日本思春期学会，日本性機能学会，日本性感染症学会

・セミナー

期 日：2005 年 2 月 12 日

場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館

(2) G I D（性同一性障害）研究会

2005 年 3 月 20 日 神戸学院大学

(3) 世界性科学会（W A S）

大会の開催なし

(4) アジア性科学会（A F S）

第 1 回アジア・パシフィック（オセアニア）性科学学会

2004 年 11 月 21～24 日 インド・ムンバイ市

9. その他の活動

(1) セクシュアリティ研究会（代表：荒木乳根子）

「中高年単身者のセクシュアリティ調査」の実施および集計分析。

(2) がんと性研究会「実行委員会」（代表：高橋 都）

「がん患者さんの性を支援するための研修会（医療者向け）」4 月，9 月開催。

〈資料2〉

日本性科学会 2004 年（平成 16 年）度決算（2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日）

〈資料3〉

日本性科学会 2005 年（平成 17 年）度事業計画案（2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）

1. 学術集会の開催
 - 第 25 回日本性科学学会
期 日：2005 年 11 月 6 日（日）
場 所：東京都・東京医科歯科大学講堂
会 長：麻生 武志
（東京医科歯科大学 周産・女性診療科 教授）
テーマ：「性科学の現状と展望」
2. 研修会，研究会の開催
 - (1)第 34 回性治療研修会
期 日：2005 年 5 月 22 日（日）
場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館
 - (2)症例研究会
3. 学会誌，学会ニュースの発行
学会誌：「中高年単身者のセクシュアリティ調査」
特別号 発行
4. 資格認定制度の実施
5. 関連団体との交流
 - (1)日本性科学連合（J F S）
セミナー／2005 年 11 月 5 日（土）
東京都・東京医科歯科大学講堂
 - (2)第 18 回世界心身医学会議
2005 年 8 月 21 ～ 26 日 神戸国際会議場，
神戸ポートピアホテル
 - (3)G I D（性同一性障害）研究会
2006 年 3 月 19 日 福岡大学
 - (4)世界性科学会（W A S）
2005 年 7 月 10 ～ 15 日 カナダ・モントリオール
 - (5)アジア・アオセアニア性科学会（A O F S）
6. その他の活動
 - セクシュアリティ研究会（代表：荒木乳根子）
 - がんと性研究会「実行委員会」（代表：高橋 都）
との共同研究

〈資料4〉

日本性科学会 2005 年（平成 17 年）度予算案（2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト 資格認定および更新に関する告示

認定委員会委員長 阿 部 輝 夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定ならびに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成 17 年度の資格認定ならびに更新を行います。申請期間は、8 月 1 日～8 月 31 日です。

資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局まで、ご請求下さい。また、資格更新該当者には、事務局より更新申請書類を 7 月中に郵送致します。

いずれの場合も、規定をご熟読の上、ご申請下さい。

計 報

当学会理事河野友信先生（東洋英和女学院大教授，心身医学専攻）は本年 5 月 18 日，急性心不全のため死去されました。心からご冥福をお祈りいたします。先生は本学会の前身である日本セックス・カウンセリング・セラピスト協会時代より理事として本会の発展のために尽くされました。特に雑誌担当を扱っておられ，本学会誌がよりよい貴重な研究論文であることを目標にされ，毎回編集後記を執筆され会員の先生方の投稿をいつも期待されていました。最近はお病のため学会に出席されることは少なかったのですが，1994 年のセックスレスを巡るの討論では司会を務められ多くの質問を巧みにまとめられ，セックスレス特集として学会誌特集を出されたことは皆様よくご記憶のことと思います。心から相手の立場を考え，新しいアイディアで我が学会を牽引されていました。まだ 67 才という若さでお亡くなりになったのは本当に寂しくまた残念であります。安らかにお休みになるよう心から祈念いたします。

先生は 1937 年生まれられ，熊本大学医学部を御卒業。80 年代，先端技術によるテクノストレスにいち早く警鐘を鳴らしたのをはじめ，患者の精神面を重視したがん医療に取り組まれ，ご専門の心療内科の立場から性の問題に深く関わられました。多くの著書を出版されています。

（日本性科学会理事長 野末 源一）